

## 第101回 2024年9月28日(土)

### 田中慎弥 (たなか しんや) 作家

1972年山口県生まれ。山口県立下関中央工業高校卒業。2005年「冷たい水の羊」で新潮新人賞、08年「蛹」で川端康成文学賞、同年「蛹」を収録した作品集『切れた鎖』で三島由紀夫賞、12年「共喰い」で芥川賞、19年『ひよこ太陽』で泉鏡花文学賞を受賞。他の作品に『燃える家』『宰相 A』『地に這うものの記録』『完全犯罪の恋』など。近著に『流れる島と海の怪物』がある。



© 石井康義

### 山田詠美 (やまだ えいみ) 作家

1959年東京都生まれ。85年『ベッドタイムアイズ』で文藝賞を受賞し小説家デビュー。87年『ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー』で直木賞、89年『風葬の教室』で平林たい子文学賞、91年『トラッシュ』で女流文学賞、96年『アニマル・ロジック』で泉鏡花文学賞、2001年『A2Z』で読売文学賞、05年『風味絶佳』で谷崎潤一郎賞、12年『ジェントルマン』で野間文芸賞、16年「生鮮てるてる坊主」で川端康成文学賞を受賞。22年、本格自伝小説『私のことだま漂流記』を刊行。近著に『肌馬の系譜』がある。

© 文藝春秋

## 第102回 2024年10月26日(土)

### 長野まゆみ (ながの まゆみ) 作家

東京都生まれ。1988年「少年アリス」で文藝賞を受賞し小説家デビュー。『天体議会』『テレビジョン・シティ』『猫道楽』他、08年刊行の『改造版少年アリス』など、自ら挿画を手がけている著書多数。2015年『冥途あり』で泉鏡花文学賞、野間文芸賞を受賞。『野川』『チマチマ記』『銀河の通信所』など著書多数。18年、デビュー30年記念小説として『カムパネルラ版 銀河鉄道の夜』を発表。近著に『長野まゆみの偏愛耽美作品集』、『ゴッホの犬と耳とひまわり』がある。



© 講談社/金栄珠

### そらしという 詩人

1988年埼玉県生まれ。2013年、思潮社より刊行した第一詩集『フラット』で歷程新鋭賞を受賞。16年、第二詩集『暁を踏み割ってゆく』(ふらんす堂)を、20年、第三詩集『もうずっと静かな嵐だ』(ふらんす堂)を刊行。

© 吉原洋一

## 第103回 2024年11月30日(土)

### 木内昇 (きうち のぼり) 作家

1967年東京都生まれ。出版社勤務を経て独立し、インタビュー誌「Spotting」を創刊。2004年『新選組幕末の青嵐』で小説家デビュー。08年に刊行した『茗荷谷の猫』で話題となり、翌年、早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞を受賞。11年『漂砂のうたう』で直木賞、14年『櫛挽道守』で中央公論文芸賞、柴田錬三郎賞、親鸞賞を受賞した。他の作品に『ある男』『よこまち余話』『光炎の人』『球道恋々』『万波を翔る』『剛心』『かたばみ』など。近著に『惣十郎浮世始末』がある。



© 開めぐみ

### 堀川恵子 (ほりかわ けいこ) ノンフィクション作家

1969年広島県生まれ。2010年『死刑の基準—「永山裁判」が遺したもの』で講談社ノンフィクション賞、11年『裁かれた命—死刑囚から届いた手紙』で新潮ドキュメント賞、14年『永山則夫—封印された鑑定記録』でいける本大賞、『教師師』で城山三郎賞、16年『原爆供養塔—忘れられた遺骨の70年』で大宅壮一ノンフィクション賞・石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、18年『戦禍に生きた演劇人たち—演出家・八田元夫と「桜隊」の悲劇』でAICT演劇評論賞、19年『狼の義—新犬養木堂伝』(林新氏と共著)で司馬遼太郎賞、21年『暁の宇品 陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』で大佛次郎賞を受賞。